

おかず係の女の子を裸にして見抜き することができる学校の話

僕が通っていた中学校は、奇妙なルールがあった。「おかず係」日替わりで選ばれた女子が、放課後に男子の性欲を満たすために服を脱ぐ。そう校則で決められていた。

2年生の秋、僕は雪乃に想いを寄せていた。雪乃はクラスで目立たない子だった。長い黒髪をポニーテールにまとめ、いつも少し俯きがち。笑顔は控えめで、でも目が合った瞬間、心がざわつくような子だった。その日、雪乃が「おかず係」の当番だと知ったとき、胸が締め付けられるような感覚に襲われた。ずっと心のどこかで想像していた瞬間が、ついにやってきたのだ。

昼休み、雪乃が窓際の席で本を読んでいるのを見つけた。勇気を振り絞り、声をかけた。「雪乃、今日、おかず係だよね？ 放課

後、残っててくれる？」声が震えた。雪乃は本から目を上げ、僕を一瞬見つめて小さく頷いた。「うん、いいよ」彼女の声は静かで、落ち着いていた。心臓がドクドクと鳴り、現実感が薄れた。

放課後、教室には僕と雪乃だけが残った。雪乃はゆっくりとブレザーを脱ぎ始めた。セーラー服のスカートを解き、ブラウスのボタンを一つずつ外していく。